

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

今後のイチゴのハダニ類の防除対策

近年、イチゴではハダニ類の多発生が続いています。本圃での被害の発生を防ぐには、育苗床における徹底防除および定植後の天敵を導入した総合防除を行う必要があります。ついては、下記事項を参考に、防除対策を徹底するよう生産者に対する指導をお願いします。

記

1. 県内での発生状況

- 1) 本年9月上旬に行ったイチゴ苗の調査において、ハダニ類の発生株率は2.2%（平年7.2%、前年4.2%）で平年よりやや少ないものの（図1）、8月下旬時点の発生圃場率は、72.7%（平年51.0%、前年63.6%）で平年より高く、現在も多くの圃場で発生していると思われる。

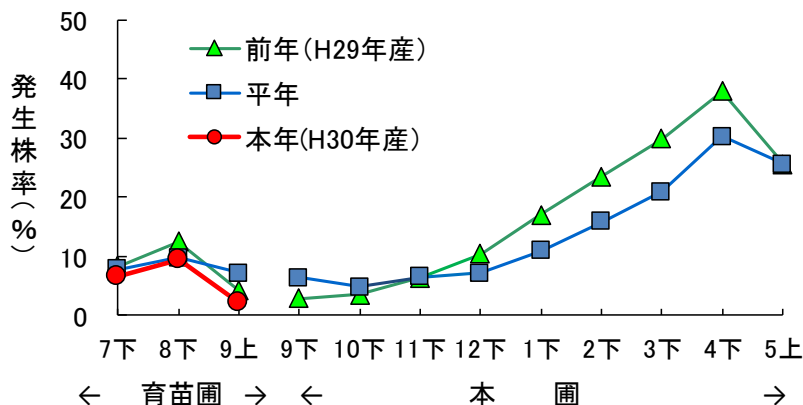


写真1 ナミハダニ

図1 イチゴでのハダニ類の発生推移

2. 今後の防除対策

イチゴのハダニ類については、薬剤感受性の低下により、薬剤の防除効果が十分に得られない場合もあるため、下記に示す総合的な対策により防除を行う（図2参照）。

1) 育苗期の防除

- (1) 薬剤に対する抵抗性が発達しないよう、育苗期間中は、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖型薬剤（フーモン等）を活用する。ただし、本剤は卵に対して効果が無いため、散布間隔をハダニ類の卵期間である5日とり、2～3回連続散布する。なお、薬害防止のため、展着剤を加用せず、高温時の散布は控え、朝夕の涼しい時間帯に散布する。
- (2) ハダニ類の寄生のない苗を定植するため、定植前にモベントフロアブルの灌注処理を実施する。
- (3) 薬液がかかりやすいよう、苗は十分な間隔を置いて並べ、葉裏にも薬液がかかるよう、分量を丁寧に散布する。なお、ベンチ育苗の圃場においては、ベンチ下からも薬液を噴霧する等、薬

液が葉裏にもムラなくかかるように工夫する。

(4) ハダニ類は下位葉に寄生していることが多いので、不要な下葉を除去し、圃場外で適切に処分する。また、圃場内、圃場周辺の雑草はハダニ類の発生源となるので、除草する。

2) 定植後の防除

(1) 本圃の防除は天敵であるカブリダニ剤と殺ダニ剤の組み合わせによる体系防除を行う。なお、天敵導入前に天敵に影響の少ない薬剤（コロマイト水和剤、マイトコーネフロアブル等）を用いて、ハダニ類の防除を必ず実施する。

(2) カブリダニ剤はハダニ類の密度が高いと十分な効果が得られない場合があるため、発生状況をよく観察したうえで放飼する。その後、ハダニ類の密度が0.5頭以上/複葉の場合は、天敵に影響の少ない薬剤（スターマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル等）を散布して、密度抑制を図る。

	月・旬	耕種的防除	薬剤散布及び天敵の放飼	防除上注意する点	
育苗床	9月	中旬	フーモン フーモン	約5日間隔で気門封鎖型薬剤を連続散布する。	
		下旬	モベントフロアブルの灌注		
定 植					
本 圃	10月	上旬	天敵に影響が少ない薬剤（コロマイト水和剤、マイトコーネフロアブル等）を散布する。	天敵導入前に密度抑制を図るため、薬剤防除を実施する。	
		中旬			・ハダニが寄生した葉の除去
		下旬			
	11月	上旬	スパイカルEX(ミヤコカブリダニ) 2,000～3,000頭/10a放飼	適宜調査を行い、ハダニ類の密度が0.5頭以上/複葉の場合は、天敵に影響の少ない剤（スターマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル等）を散布する。	ビニル被覆後に放飼する。
		中旬			
		下旬			
	12月		スパイカルEXまたはスパイデックス(チカブリダニ)5,000頭/10a放飼	12月以降もハダニ類の発生に注意し、密度が0.5頭以上/複葉の場合は、天敵に影響の少ない剤を散布する。	
	1月		スパイデックス2,000～3,000頭/10a放飼 (ハダニ類の発生が認められない場合は省略可能)		
	2月		スパイデックス2,000～3,000頭/10a放飼		
	3月		スパイデックス2,000～3,000頭/10a放飼		
4月		ハダニ類の密度が急速に高まる場合は、殺ダニ剤を散布する。			
5月					

図2 イチゴのハダニ類の総合的な防除対策(例)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042